

取組1 循環型社会の形成

取組の評価 3.2 概ね順調

＜取組1の基本方針＞
1 資源循環型社会の推進
2 環境保全意識の高揚
3 地球環境の保全

【取組の目的】省資源、省エネルギーを推進するとともに、新エネルギーの有効利活用を促進し、自然環境の保全と環境負荷の少ない資源循環型社会を構築します。

『取組』に係る社会の動向と本市の現状

1 社会の動向

- ◎ 東日本大震災ににおける福島第一原子力発電所の事故は、日本の電力とエネルギー政策のあり方に根本的な見直しを迫り、特に現在議論が進められている原子力政策の中長期的な方向性は重要な位置づけとなる。
- ◎ こうした中、去る7月1日の「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」開始を受けて、再生可能エネルギービジネスが活発化しており、特にメガソーラー発電と風力発電への民間による投資計画が全国で急増している。本県においても、東日本大震災や浜岡原子力発電所の停止による電力需給の逼迫を受けて「ふじのくに新エネルギー等導入倍増プラン」の目標達成の前倒しに向け、新エネルギー等の導入加速化に向けた取り組みが進んでおり、メガソーラーの立地促進のため、「ふじのくにメガソーラー情報バンク」を県ホームページに開設することとなった。
- ◎ また、電力供給不足への懸念から、企業や国民の節電・省エネ意識が高まり、企業では夏の軽装「クールビズ」の実施を早めたり、サマータイムを導入、国民においては節電に繋がるグリーンカーテンの普及が進むなど、様々な創意工夫による取り組みが実施されている。

2 本市の現状（主な取組）

- ◎ 太陽光発電システムの導入補助を平成11年度から開始したが、平成23年度から対象枠を住宅用に加え事業所建物にも拡大、平成24年度からは補助額を1KWあたり3万円、上限12万円に拡大したこともあり、住宅の新築や建て替え、各種機器の耐用年数到来による買い換えを機に、設置する市民が増えている。
- ◎ 「ふじのくにエコチャレンジDAYS事業」や「家庭版エコチャレンジ事業」を展開することで、一般家庭での省エネ意識の高揚を推進するとともに、小学校を対象としたアースキッズ事業やエコパを活用した環境教育事業を実施することにより、温暖化防止への取り組みや自然の大切さを学習し、次代を担う子どもたちや地域の人々への環境保全意識の高揚へと繋げていくこととしている。
- ◎ 資源循環型社会の形成に向けて、市民が分かりやすいモデル的なバイオマス事業として「菜の花エコプロジェクト推進事業」を実施している。これは、耕作放棄地を活用した資源作物「菜の花」の栽培（種まき・刈取・種取）、搾油を、市民（菜の花サポーター）が参加することによって、資源循環について体験し環境学習に繋げることを目的としている。また、平成23年度から荒廃竹林対策と生ごみの減量化の取り組みとして、竹粉碎機の貸出し及び竹を活用した生ごみ堆肥化講習会の開催などの「竹エネルギー活用推進事業」を展開している。

『取組指標』の分析と評価結果

1 取組指標の評価 【※ 実績値は、各年度末における最新数値】 評価結果の平均値（A） 1.8

＜評価基準＞ 4：達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 3：達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 < 0% 2：達成率 < 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 1：達成率 < 100%・前年比伸び率 < 0%

番号	指標名	項目	現状値(計画)	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1	1人1日当たりの家庭ごみの排出量【g】	目標値	—	618	618	618	618	618	618
		実績値	628	618	646				
		達成率 伸び率	— —	100.0 1.5	95.6 ▲4.5				
		評価	—	4	1				
2	年間資源リサイクル率【%】	目標値	—	26.1	26.1	27.1	28.1	29.1	30.8
		実績値	25.5	25.1	22.4				
		達成率 伸び率	— —	96.1 ▲1.5	85.9 ▲10.6				
		評価	—	1	1				
3	新エネルギー機器導入促進奨励金の交付件数【件】	目標値	—	2,950	2,950	3,300	3,650	4,000	4,300
		実績値	1,859	2,644	3,481				
		達成率 伸び率	— —	89.6 42.2	118.0 31.6				
		評価	—	2	4				
4	生ごみ処理機等設置費補助金交付件数（累計）【台】	目標値	—	1,980	1,980	2,055	2,130	2,205	2,280
		実績値	1,846	1,907	1,979				
		達成率 伸び率	— —	96.3 3.3	99.9 3.7				
		評価	—	2	2				
5	ISO14001・エコアクション21認証取得事業所数【箇所】	目標値	—	136	136	139	143	146	150
		実績値	129	136	134				
		達成率 伸び率	— —	100.0 5.4	98.5 ▲1.4				
		評価	—	4	1				

- 【指標に影響を与えた主な要因】
- ◎ 1人1日当たりの家庭ごみの排出量：台風により大量のごみが発生したことで排出量が増加した。
 - ◎ 新エネルギー機器導入促進奨励金の交付件数：太陽光発電システムについて、補助対象を事業所にも拡大したこと及び市民の節電意識の高まりから、交付件数が増加した。

2 指標で表すことが困難な成果

- ◎ 学校や公民館学級等における環境教育を継続実施していることで、特に次世代を担う子どもたちの環境保全意識の高揚へ繋がっており、長期的視点に立った循環型社会の形成に効果があると考えられる。

『主要事業』に係る事業評価表の評価結果

1 主要事業の評価

番号	主要事業名	H23 事業費 【千円】	事業評価表の評価結果			
			有効性	効率性	廃止の影響	
			4. 有効 3. 概ね有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 効率的 3. 概ね効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 影響あり 3. どちらでもない 2. 影響ない 1. 代替手法がある	
1	環境基本計画推進事業	67	4	4	4	
2	新エネルギー施策推進事業	35,776	4	4	4	
3	菜の花エコプロジェクト推進事業	369	4	3	4	
4	省エネルギー推進事業	2,832	4	4	4	
5	環境教育推進事業	535	4	4	4	
6	環境情報発信事業	26	4	2	4	
7	環境マネジメントシステム推進事業	0	4	4	4	
8	環境美化指導員・推進員設置事業	391	4	4	4	
9	廃食用油回収事業	466	4	2	1	
10	竹エネルギー活用促進事業	2,329	3	3	4	
11	生ごみ処理機等設置費補助事業	913	4	2	4	
12	古紙等資源集団回収自治会奨励金交付事業	9,064	4	3	4	
13	資源ごみ回収自治会奨励金交付事業	8,915	4	4	4	
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
評価結果の平均値（B）		3.7	3.9	3.4	3.8	

『 取 組 』 の 有 効 性 ・ 必 要 性 ・ 緊 急 性 の 評 価 結 果

1 取組の有効性等の評価 評価結果の平均値（C） 4.0

番 号	評 価 項 目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	コ メ ン ト 欄
1	有 効 性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	4					◎ 太陽光発電システムの導入については、平成23年度から住宅用に加え事業所建物に対しても補助の対象枠を拡大したことや環境保全意識の高まりもあり、住宅の新築や建て替え、各種機器の耐用年数到来による買い換えを機に、設置する市民が増えている。 ◎ 啓発活動、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進などの結果、ごみの減量については、市民意識の高まりが感じられるようになったが、特殊要因として、昨年9月の台風の影響により大量のごみが発生したことが原因で、1人1日あたりの家庭ごみの排出量が増加した。
2	必 要 性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	4					◎ 福島第一原子力発電所の事故を受け、日本のエネルギー政策のあり方の大幅な見直しが議論される中、再生可能エネルギーの割合を高めていく必要があることから、本市においても県内トップクラスの補助制度を活かし積極的に推進する必要がある。 ◎ 近年、地球温暖化がもたらす異常気象により、想定を超える自然災害が発生していることから、地球温暖化防止に向けた節電・省エネへの取り組みを推進し、企業や市民のライフスタイルの見直しを含め、環境意識の向上を図る必要がある。
3	緊 急 性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	4					◎ 固定価格買取制度の開始により再生可能エネルギーへの転換の機運が高まっていることから、一層の市民の意識啓発と県内トップクラスの本市補助制度を活かし積極的に推進する機会である。 ◎ 地球温暖化による異常気象など地球規模での深刻な影響がでていることから、CO2排出量の削減に向け、市民1人ひとりが環境にやさしい暮らしに転換する必要があり、緊急性が極めて高い。

『 取 組 』 の 総 合 評 価 と 今 後 の 展 開 方 向

1 総合評価 <評価基準> 4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

取 組 の 評 価			コ メ ン ト 欄
3.2	概ね順調		◎ 太陽光発電システムの導入については、平成２３年度から住宅用に加え事業所建物に対しても補助の対象枠を拡大したことや環境保全意識の高まりもあり、住宅の新築や建て替え、各種器機の耐用年数到来による買い換えを機に、設置する市民が増えている。
各評価結果の平均値			◎ 啓発活動、３Ｒ（リデュース、リユース、リサイクル）の推進などの結果、市民のごみの減量に対する意識の高まりが感じられるようになったが、特殊要因として、昨年９月の台風の影響により大量のごみが発生したことが原因で、１人１日あたりの家庭ごみの排出量が増加した。
取組指標の 評価結果（Ａ）	主要事業の 評価結果（Ｂ）	有効性等の 評価結果（Ｃ）	◎ 近年、地球温暖化がもたらす異常気象により、想定を超える自然災害が発生していることから、地球温暖化防止に向けた節電・省エネへの取り組みを推進し、企業や市民のライフスタイルの見直しを含め、さらに環境意識の向上を図る必要がある。
1.8	3.7	4.0	

2 取組の基本方針別 今後の展開方向

番 号	取 組 の 基 本 方 針	H22	H23	H24	H25	H26	H27	今 後 の 展 開 方 向
1	資源循環型社会の推進	継続推進 ➡	継続推進 ➡					「市民環境ネットふくろい」や環境保全団体等の活動を推進し、ゴミの排出抑制やリユース、リサイクルの普及・啓発を図るとともに、市民参加型の「菜の花エコプロジェクト推進事業」をモデル事業とし、市民・事業者・農業者の協働による資源循環活動を推進していく。
2	環境保全意識の高揚	継続推進 ➡	継続推進 ➡					「ふじのくにエコチャレンジDAYS事業」や「家庭版エコチャレンジ事業」への参加者を増やすことで一般家庭での省エネ意識の高揚を推進するとともに、学校や公民館学級等における環境教育の充実を図り、次代を担う子どもたちや地域の人々への環境保全意識の高揚へと繋げていく。
3	地球環境の保全	拡充 ↻	拡充 ↻					「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を追い風に、本市奨励金制度を活用した新エネルギー機器の導入を積極的に促進するとともに、地球温暖化防止に向けた節電・省エネへの取り組みを推進し、企業や市民の環境意識の向上を図る。
4								
5								
6								

【その他留意事項】